



TITLE:

ハブクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱)の 長らく残る刺傷跡

AUTHOR(S):

篠坂, 賢治; 久保田, 信

CITATION:

篠坂, 賢治 ...[et al]. ハブクラゲ(刺胞動物門, 箱虫綱)の長らく残る刺傷跡
. Kuroshio Biosphere 2014, 10: 19-20

ISSUE DATE:

2014-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/187928>

RIGHT:

© 2014 黒潮生物研究財団

ハブクラゲ（刺胞動物門，箱虫綱）の長らく残る刺傷跡
LONG-LASTING STING SCAR BY A CUBOMEDUSA
CHIRONEX YAMAGUCHII (CNIDARIA, CUBOZOA)

By

篠坂賢治¹・久保田 信^{2*}
Kenji SHINOSAKA¹ and Shin KUBOTA²

概要

Abstract

We reported here a sting case by tentacles of *Chironex yamaguchii* (Cnidaria, Cubozoa) encountered in 2000 at Iriomote Island, Okinawa Prefecture, Japan. Almost 14 years are required to cure from this sting but still the sting scar is remained.

はじめに

Introduction

ハブクラゲ *Chironex yamaguchii* (= *Chiropsalmus quadrigatus*) は我が国では沖縄島から石垣島にかけて分布する立方クラゲ類の一種で、この類の中では大型で、その刺胞毒は強く、小人の死亡例さえ報告されている（内田 1936; 岩永ほか 1999; 2001; 小林 2002; Kawamura *et al.* 2003; 三宅・Lindsay 2013）。今回、著者の一人である篠坂が 14 年前にハブクラゲに刺された時の刺傷例と、その傷跡を報告する。

材料と方法

Materials and Methods

2000 年夏、沖縄県西表島の浜辺で予期せぬハブクラゲの刺傷を篠坂が受けた。幸い、致命傷には至らなかったものの、当時の遭遇状況と長らく残る刺傷跡を画像で示した。

-
1. 〒251-0035 神奈川県横浜市鶴見区
Yokohama-shi Tsurumi-ku, Kanagawa, 251-0035 Japan
 2. 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町 459 京都大学フィールド科学教育研究センター瀬戸臨海実験所
Seto Marine Biological Laboratory, Field Science Education and Research Center, Kyoto University,
459 Shirahama, Nishimuro, Wakayama 649-2211, Japan
* e-mail: kubota.shin.5e@kyoto-u.ac.jp

結果と考察

Results and Discussion

ハブクラゲの地理的分布の南限は石垣島とされているが（三宅・Lindsay 2013）、西表島にも本種が生息しているのは、著者の一人の久保田が長年の南西諸島産クラゲ類相の調査中に何度も遭遇しているので確かである。従って、下記の遭遇もありえる。

著者の一人の篠阪（当時 33 歳の男性）のハブクラゲによる刺傷例を報告する。2000 年夏、台風が通過して 3 日後、八重山列島西表島の北西にある浜辺で、左大腿部（ふともも）の裏側までハブクラゲの触手がほぼ 1 周巻きついた。丁度、カヌーツアーの際の休憩中の出来事で、腰あたりまで海水につかっていた時にいきなり巻きつかれ、その瞬間、言葉にならないほどの激痛、まるで有刺鉄線を巻かれて引っ張られたような痛みが走った。クラゲ本体の大きさなどを確認する余裕は全くなく、急いで浜辺まで戻り、ガタガタ震えながら、ちぎった触手を仲間に割り箸で巻き取ってはずしてもらった。それから診療所までカヌーで緊急搬送され、食用「ミツカン酢」を塗ってもらったところ、すぐに激痛がひいた。その後は特別な治療はしていない。

しかし、その傷跡はその後も長期間残り、10 年後になっても「左大腿部（ふともも）の裏側までの 1 周」は明瞭であった（図版 1A）。14 年が経過した現在の傷跡はひどくは目立たなくなったものの、依然としてそこをすぐ見つけることができる状態にある（図版 1B）。

以上のように、重症に至らなかったのは付着した触手を即座に取り除いたことと、食酢を刺傷後短時間後にかけた効果があったものと推察され、ハブクラゲの存在があまり知られていない当時としては優れた応急処置であったといえる。

引用文献

References

- 岩永節子・大城直雅・岸本高男, 1999. ハブクラゲによる刺症事故の概要. In 平成 10 年度. 海洋危険生物対策事業報告書, 沖縄県衛生環境研究所, pp. 7-11.
- 岩永節子・比嘉健俊・仲間由信, 2011. ハブクラゲ刺傷による呼吸停止事例. In 平成 11～12 年度. 海洋危険生物対策事業報告書, 沖縄県衛生環境研究所, pp. 17-18.
- Kawamura, M., Ueno, S., Iwanaga, S., Oshiro, N. & Kubota, S. 2003. The relationship between fine rings in the statolith and growth of the cubomedusa *Chiropsalmus quadrigatus* (Cnidaria: Cubozoa) from Okinawa Island, Japan. *Plankton Biol. Ecol.*, 50(2): 37-42.
- 小林照幸, 2002. 第 2 章 その名もハブクラゲ. In 海洋危険生物 沖縄の浜辺から, pp. 40-83, 文春新書, 東京.
- 三宅裕志・Dhugal L. 2013. 最新クラゲ図鑑. 110 種のクラゲの不思議な生態. 127 pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 内田亨, 1936. 日本動物分類 第 3 巻 第 2 編 鉢水母綱. 94 pp. 三省堂, 東京.



図版 1 の説明
Explanation of plate 1

図 A. ハブクラゲの刺傷跡：10 年経過後の 2010 年に撮影

Figure A. *Chironex yamaguchii* sting scar: 10 years after sting (photographed in 2010).

図 B. ハブクラゲの長期にわたって残る刺傷跡：14 年経過後の 2014 年に撮影

Figure B. Long-lasting sting scar by a Cumomedusa *Chironex yamaguchii*: 14 years after sting (photographed in 2014).

図版1

PLATE 1

